



方面総監統率方針
任務完遂

発行所

陸上自衛隊
 中部方面総監部広報室
 〒664-0012 兵庫県伊丹市緑ヶ丘7-1-1
 電話…072(782)0001

カンボジア能力構築支援

第4施設団(団長 坂元陸将補)は、令和3年2月1日(月)から5日(金)迄の間、カンボジア王国軍の将校に対して、道路建設に必要な道路測量技術について陸自初のオンライン教育を実施した。教育を担当した第7施設群(群長 坂本1佐)は、陸上自衛隊として初めてのPKOであるカンボジア派遣施設大隊の基幹部隊として現地で活躍した部隊である。参加者は、相互に深い縁を感じながら両国の懸け橋となるべく、真剣に教育に取り組み、令和3年度に日本に招へいされ、引き続き測量技術に係る全ての教育を履修する予定である。



教育に参加するカンボジア軍



模型等を活用したオンライン教育を実施する第7施設群の隊員

災害派遣

富山県小矢部市における鳥インフルエンザ発生に係る災害派遣



作業準備をする隊員

令和3年1月22日(金)、富山県小矢部市に所在する養鶏場で鳥インフルエンザが発生し、1月23日(土)富山県知事からの災害派遣要請に基づき、第10師団(師団長 鈴木陸将)隷下の第14普通科連隊(連隊長 根本1佐)が派遣された。連隊は、富山県から要請された任務を24時間態勢で遂行し、1月24日(日)に県知事からの撤収要請を受けて災害派遣を終了した。

北海道訓練センター運営検証



令和3年1月22日(金)から2月7日(日)の間、第13旅団(旅団長 兒玉陸将補)は、九州で実施された北海道訓練センター運営検証に参加した。運営検証には第13旅団隷下の第17普通科連隊(連隊長 杵淵1佐)が基幹となって参加し、防衛戦闘訓練を行った。本運営検証は、第13旅団にとっても更なる練度向上の資を得ることができるとの良き機会であった。

防衛準備を進める各部隊

(上段: 第17普通科連隊 下段左: 第13高射特科中隊 下段右: 第13施設隊)

令和2年度日米共同 統合防災訓練



航空自衛隊美保基地において、輸送機に積載される高機動車

令和3年2月12日(金)から13日(土)の間、中部方面隊(総監 野澤陸将)は、令和2年度日米共同統合防災訓練に参加した。本訓練は、災害発生時における自衛隊と防災関係機関との連携及び日米共同による災害対処能力の維持・向上を目的として実施されている。

中部方面隊からは方面総監部、第13旅団、第14旅団及び中部方面航空隊等が参加し、防災関係機関及び在日米軍との連携要領について演練し、災害発生に備えた有意義な訓練となった。

方面対空戦闘訓練



令和3年2月15日(月)から19日(金)の間、中部方面隊(総監 野澤陸将)は、青野原駐屯地等において、方面対空戦闘訓練を実施した。参加部隊は、第8高射特科群、各師・旅団高射特科部隊及び中部方面通信群等であり、シミュレーションによる対空戦闘訓練に参加した。

本訓練は、方面高射特科群及び各師・旅団高射特科部隊にとって練度向上の良き機会となった。

シミュレーションによる訓練の状況

陸自飯グランプリ 伊丹飯、3種肉ひつまぶし 部門1位獲得!



「ご当地グルメ」部門1位（総合3位）
伊丹飯（伊丹駐屯地）



「肉料理」部門1位（総合2位）
3種肉ひつまぶし（守山駐屯地）

全国の陸上自衛隊各駐屯地食堂のご当地メニューグランプリが令和3年2月に開催された。陸自飯グランプリでは、ご当地グルメ、ラーメン、井、肉料理の4つの部門の1位と各部門1位の各部門総合1位をSNSの投票により争われた。この「陸自飯」に中部方面隊管内から全ての駐屯地が自慢のメニューをエントリーしたところ、伊丹飯（伊丹駐屯地）がご当地グルメ1位（総合3位）、3種肉ひつまぶし（守山駐屯地）が肉料理部門1位（総合2位）を獲得した。

中部方面隊公式HP



中部方面隊公式HPでは、「ダーツの旅」等の動画や過去の広報紙「飛鳥」を公開中です。今回、ご当地グルメ部門1位を獲得した伊丹飯は、飛鳥129号で紹介記事がありますので、是非ご覧ください。

〈中部方面隊〉
〈公式ホームページ〉



不発弾処理（高知県安芸市）



不発弾処理の状況

令和3年1月31日（日）、中部方面後方支援隊（隊長 安井1佐）隷下の第103不発弾処理隊（隊長 生田3佐）により1000ポンド爆弾（約500kg）の処理が高知県安芸市で実施された。不発弾処理時には安全のため、地元自治体により半径300mの範囲（住民約500名）の避難が実施された。不発弾処理は、午前9時から作業が開始され、約2時間後に信管（爆弾を起爆させるための装置）が安全に取り外された。不発弾処理は、全国で年間約1500件（中部で約400件）行われていて、約400件も事故なく安全に処理されている。

イベント情報

4月の各駐屯地の記念行事等について

4月の各駐屯地記念行事等は新型コロナウイルスの流行に伴い、無観客での実施または中止となっております。

実施予定日	行事名	場所	問い合わせ先
4/29	ヌマジ交通ミュージアムにおける演奏（第13音楽隊）	広島市交通科学博物館	自衛隊広島地方協力本部 082-221-2957

日程等の変更や観客数に制限が設けられる場合があります。事前にご確認ください。

ふあみさぽ通信 (連載:第51回)

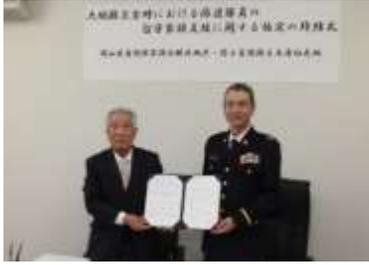
日本原駐屯地業務隊

日本原駐屯地業務隊は、岡山県北部の16市町村を担当地域として、関係部外団体と連携した家族支援施策の更なる拡充を目標に掲げ活動しています。

令和2年1月には、岡山県自衛隊家族会勝北地区と駐屯地が家族支援に関する協定を締結しました。日本原駐屯地は、これにより2コ家族会(勝北地区と津山地区)、1コ自治体(奈義町)と協定を締結したことになります。コロナ禍の中、関係部外団体との調整面を得ることが難しい状況ではありますが、引き続き協定締結範囲の拡大を図りたいと思います。

また、駐屯地は、令和2年2月に実施された「南海レスキュー01」において、実動による安否確認訓練を家族会と連携して行いました。安否確認依頼があった隊員家族の自宅へ家族会地区長とともに訪問して、安否確認を兼ねた顔合わせを行う等、事態発生時における円滑な連携要領について確認することができました。

今後、家族会・隊友会との連携を更に深化させ、家族支援態勢をより強固なものにして、隊員が安心して任務にまい進できる環境を構築して参ります。



協定締結式



安否確認訓練実施中の家族会地区会長

CSMの提言



第10施設大隊
最先任上級曹長
(春日井駐屯地)
陸曹長
石原 宗丈

「言葉は心のビタミン」

言葉には隊員をその気にさせ、やる気を引き出す一方、時にはとんでもない方向へと導いてしまう力があります。

社会、家庭においてコミュニケーション不足と言われるいま、社会では離職者の増加や仕事に対する対応力が乏しいという問題が見られます。また家庭では会話が減り、希薄な人間関係が増えている中、私は隊員に声をかけ話す機会、接する機会を多く持つことを大切に、褒めて伸ばす前向きな言葉を伝えるよう心がけています。「明るい笑顔が良いね」「いい心がけだね」「ありがとう」と言葉をかけると隊員たちも満面な笑顔で返事を返してくれ、こちらも嬉しい気持ちになります。隊員たちにとって前向きな言葉は、明るく元気溼潤と訓練・業務等に励むための原動力です。日々の心がけと前向きな言葉の積み重ねは、幅広くより深い信頼関係を築くための大きな力となり、一人ひとりの心のビタミンになっているのでしよう。

言葉は、発する人の人間性を表すものです。「自分自身の心を磨き日々のより良い言葉を発していく」それによって周囲の人に活力を与え、温かく親密な人間関係の輪が広がっていくれば部隊の健全性が保たれていくと思います。

地本のチカラ

(連載第23回:石川地本)



UH-1への搭乗

自衛隊石川地方協力本部(本部長 中川1空佐)は、令和2年11月22日(日)、秋晴れの金沢駐屯地において、中部方面航空隊の支援を受け、UH-1の体験搭乗を実施しました。

品展示、施設見学、資料館の開放、隊員との懇談、迷彩服・制服試着、指紋採取等各種体験コーナーも設定して頂き、体験搭乗枠数以上の募集対象者及びご家族をお招きすることができました。

参加した募集対象者等74名は、搭乗前教育等を受けた後、順にUH-1による古都金沢上空の旅を体験するとともに、興味のあるコーナーで様々な体験をしました。全コーナーを回った方、迷彩服とドーランに身を固めて車両と記念撮影をした方、懇談コーナーで駐屯地隊員とたっぷり1時間話した方など、楽しみながら自衛隊をより深く理解して頂くことができました。

本イベントは、感染症拡大防止のための各種制約下での実施でしたが、「ヘリ体験搭乗」と「募集広報の日」の同時開催による相乗効果で、募集対象者の興味に応じた幅広く充実した広報が可能となりました。支援して下さった各部隊の皆様へ感謝を申し上げます。

石川地方協力本部は、今後も部隊と一体となった広報活動を展開し、自衛隊への理解向上に努めて参ります。



迷彩服、ドーラン姿の参加者



高機動車体験試乗